

【別添2】(様式例2)

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇1年次生	
4 現状の分析	○普通科では落ち着きをもって学習に取り組み、節度を持った生活が送れている。生活デザイン科では活気があり、目的意識を持った生活が送れている。 ▲正解のみを求めたり、他者の目ばかりを気にしたりする場面が多く何事にもチャレンジしようとする意欲に乏しい。	
5 学校の抱える課題	◇良好な人間関係を築くことに苦手意識をもつ生徒が多く、希薄な人間関係の中で、常に不安感を抱いて生活を送っている生徒が多数いる ◇集団生活での成功体験が乏しい生徒が多く、自己肯定感及び自己有用感を持ってない生徒が多々見られる。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・今年度の学年目標として「誠意と協同」を掲げた。自己を大切にし真心をもって仲間とともに生活を送ることができることを重点とした。 ・高校生として基本的な生活習慣の確立、学習への取り組み、社会性の育成を目標とした。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業への主体的な参加(発言・交流)などの励行 (2) 学校行事への積極的な参加を促し、自己有用感を醸成する。	(1) 授業アンケートや二者懇談での生徒の評価 (2) 文化祭の振り返りによる評価	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・文化祭活動とともにを行い、適切な声掛けや振り返りを行う。 ・担当職員だけでなく、年次担当の教員全体で声掛けをし、自己肯定感を高める。 ・学年行事などを行い、学年としての連帯感と安心感を作っていく。	①授業評価アンケート結果 ②文化祭振り返りの結果 ③年次団として組織的に対応する。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 ○各クラス毎に趣向を凝らし、クラス内で協力して活動できた。また、他クラスの生徒と協力したり、評価したりする姿が見られた。 ○行事の片付けなどで指名されなくても行動できる生徒が増えた。 ・ ▲集団での活動において率先して動ける生徒は一部の生徒に固定されてしまい、動ける生徒とみている生徒の2分化が進んでいる。	総合評価 A (B) C D	
13 来年度に向けての改善方策案 ・個別最適を目指し、各個人がそれぞれの良さを発揮する場面をつくり、活動を促進していく。 ・各々が率先して活動できるよう、懇談などを通して生徒理解に努める。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・普通科は国公立大学や難関私学を目指すための取組を早い段階からしていく必要がある。
- ・多様な進路に対応できるカリキュラムがあり、少人数授業が多いので生徒にとってはわかりやすい授業が展開されて良い。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇2年次生	
4 現状の分析	<p>○おおむね落ち着いた学年である。大きな生徒指導上の問題はない。</p> <p>○多くの者が部活動を継続して取り組んでいる。そのため心身ともに豊かな学校生活が送れていると考える。</p> <p>▲進路については、高い目標を持って邁進するというより、現状の中から選択していく傾向がみられる。</p> <p>▲学習姿勢は悪くないが、理解力に乏しいため、学力が思うように向上しない。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇普通科3組は進学に特化したクラスとして、1・2組との差別化を意図的に図らねばならないが、授業に於いての大きな違いが見受けられない。</p> <p>◇生活デザイン科の一部の生徒に未だ基本的生活習慣が確立されず、欠席遅刻を繰り返している生徒がおり、なかなか改善されない。これらの生徒は推薦基準である「3年間で30日以内の遅刻欠席」を越えており、歯止めが利かない。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>・2年次目標は自らが考え自ら行動できるように「自主自律」を掲げた。中堅学年として、先輩から良い面を吸収し、後輩の手本となれるような行動力を身に付けてほしいという思いを込めた。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) クラス活動の中で、自尊心を育む。 (2) 学校行事を通して、帰属意識を高め、自信をつけさせる。	(1) 学校行事後のアンケート実施並びに結果分析と活用	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>・授業中はもちろん、LHRや掃除など、あらゆる場面で自信をつけさせるような言葉かけをしていく。</p> <p>・学校行事の中では、クラスへの帰属意識を高めさせ、それが母校愛につながるよう働きかける。</p> <p>・3組生徒が学校・学年行事の中心となるよう配慮し、学年のリーダーとして育てたい。</p>	<p>①今年度の生徒・保護者アンケートの結果</p> <p>②学校行事の振り返り</p> <p>③授業評価</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果・課題	<p>○生徒会活動や地域探究活動の発表者など、積極的にリーダーシップを発揮できる生徒が増えてきた。</p> <p>▲その反面、リーダーとして名前が挙がってくる生徒はいつも同じ面子であり、大多数の生徒は「言われればやる」といった消極的な生徒である。</p> <p>言われなくても自らの課題を見つけ行動できる生徒が増えてくることを期待したい。</p>	
	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	

13 来年度に向けての改善方策案

- ・ 3年次生一人一人の進路実現がしっかり果たせるよう、個々の進路目標を明確にし、生徒に必要な支援を適切に行っていきたい。

**II 学校関係者評価**

実施年月日：令和6年2月2日

**【意見・要望・評価等】**

- ・ 地元で活躍する生徒を育成してもらいたい。
- ・ 地域連携PJを通して地元や大人ともっとつながっていくことで視野を広げてもらいたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
2 スクール・ポリシー	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇3年次生	
4 現状の分析	○生活態度は概ね落ち着いており、生徒指導上の大きな問題はない。 ○昨年度の取組により、進路実現を意識して真摯に授業に取り組んだり、自主的に学習したりする生徒が増えた。 ▲コロナ禍の影響で上級学校が実施するオープンキャンパスへの参加が十分でなく進路の見通しが不十分な生徒がいる。	
5 学校の抱える課題	◇普通科は特別編成クラスを編成して進学への意識づけを行っているが、他クラスとの合同授業が多く編成のよさが活かされていない。 ◇良好な人間関係を構築することが不得手な生徒がおり、意思疎通の難しさに悩みを持つ生徒がいる。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・年次目標を「自己実現」とした。自身が希望する進路を実現するために、必要なことは何かを自ら考え、自ら行動することができる生徒を育てることを目指した。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各コース、進路希望に応じた指導の充実。 (2) 学校行事を通して、自ら考え行動する力を伸ばし、自己肯定感、自己有用感の向上を図る。	(1) 資格取得の状況・進学実績、合格体験記の記述内容、個人面談の実施数 (2) 各行事でのふり返り用紙の記入、アンケート結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・定期的な個人面談だけでなく、個人の状況に応じて担任による面談を実施した。必要に応じてキャリアプランナーとの面談を実施した。 ・学校行事におけるクラス活動において、生徒に考えさせたり、決定させたりするなど自主的な活動の場面を多く設定した。	①資格取得の状況・進学実績 ②合格体験記の記述内容 ③文化祭のふり返りの内容	A (B) C D (A) B C D (A) B C D
12 成果・課題	○支援が必要な生徒に適切な個別対応を実施することができ、生徒自身が納得する進路を実現することができた。 ○行事において、積極的に活動する姿や生徒同士でコミュニケーションを図り協力する活動を通して満足感や自己有用感を向上させることができた。 ▲進路実現について、年度当初の希望を実現できない生徒がいた。	
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 (A) B C D	
・今年度の取組みの成果や課題を教員間で共有し、来年度の3年次生への指導に生かす。 ・さまざまな体験・活動において、生徒が自主的積極的に参加したと感ずることができるよう、教員による準備や指導支援の充実を図る。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・3年間この学校に通うことができ良かったと90%以上の生徒が感じているというアンケート結果は評価できる。
- ・大半の生徒が自身の希望する進路を実現したことは良かった。
- ・多様な進路があるが、普通科は国公立大学をはじめとする4年制大学進学の高率を高めるべきではないか。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
2 スクール・ポリシー	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）	
4 現状の分析	○ICTを活用した授業及び協働的な学びに関する評価が高く、それが学習理解の向上に繋がっている。 ▲学校評価アンケートでおよそ1/3の保護者が、学習に関する分野に「わからない」と回答している。校内での授業の様子を適切に伝える方法が難しい。	
5 学校の抱える課題	◇普通科では、国公立大学への進学が毎年1～2名程度である。もっと多く出してほしいという外部からの要望がある。 ◇生活デザイン科の成績下位の生徒の学習指導について、学びの定着が大いに不足している。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・普通科ではICTの活用を含め、生徒全体の学力の底上げ並びに能力の高い生徒の個別指導を行う。 ・生活デザイン科では、基礎的な学力を身に付けられるよう、各教科担当が工夫した授業実践を行う。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業におけるタブレットの十分な活用 (2) 生徒個々に応じた学習指導	(1) ICTの活用に関するアンケート結果の分析並びに活用 (2) 生徒の異動理由及び進路先の結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・ICT機器は多くの授業で活用されている。 ・成績の振るわない生徒に対し、補充や再試等を手厚く行っている。	①今年度の生徒及び保護者アンケートの結果がどうか。 ②ICTを十分活用できたか。	A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○多くの授業でICT機器を活用した授業がなされ、生徒の授業評価も比較的高評価を得ている。 ▲保護者のアンケート結果はほんのわずかだが改善したが、家庭に本校の様子がまだまだ伝わっていない。	
13 来年度に向けての改善方策案	授業については、ずっと高評価を維持している。それに満足せず、さらに一步進んだ授業改善をする。保護者にもそれが伝わるような工夫を模索する。 学力定着のため、家庭学習のさせ方について各教科、年次で検討し、取組ませる。	
	総合評価 A (B) C D	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・成績が伸びない生徒に対しての取組を学校として工夫していく必要がある。
- ・上位層を厚くし、進学に向けて伸ばすことが普通科としての役割ではないか。
- ・さらに生徒の学力を伸ばす工夫をしてもらいたい。外部講師やICT機器を効率的に活用し、国公立大学難関私学を目指させてもらいたい。



【別添2】(様式例2)

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校 学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部 (渉外・広報)	
4 現状の分析	○学校からの情報発信については保護者の評価は高い ○育友会活動や会計の透明性について、保護者は満足している。	
5 学校の抱える課題	・コロナ禍以前のように育友会活動を実施することができるか。 ・同窓会理事会、同窓会代議員会を開催し、創立100周年記念事業の準備を行い、記念式典を行うことができるか。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・育友会行事への参加者を増やすための継続的な呼びかけ ・同窓会活動の活性化 ・保護者、地域、中学生等に対する本校の広報	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 可能な範囲での同窓会活動の活性化 (2) 創立100周年事業等の実施 (3) 育友会広報誌「真澄」、生徒活動記録『真澄が丘』や学校紹介パンフレットの発行	(1) 育友会役員からの意見聴取 (2) 同窓会役員からの意見聴取 (3) 保護者や生徒、教員への意見聴取	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・真澄祭での育友会活動 ・創立100周年記念事業の実施	①行事への参加・運営状況 ②各行事の感想や反省の共有 ③生徒・保護者・職員の反応	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○コロナ禍以前のように、育友会行事を実施できた。 ○同窓会理事会、同窓会代議員会を開催し、創立100周年事業向けの準備できた。準備は学校職員が中心に行ったが、同窓会や育友会と連携して盛大に記念式典を行うことができた。	
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A (B) C D	
・入学生の保護者の中から育友会役員を選出する方法を、地区毎ではない方法に変更する。 ・育友会行事について、一般会員の関心はあまり高くない。真澄祭以外の育友会参加行事はあまり活性化していない。今後の行事を再検討する必要がある。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・100周年記念事業の広報をもっと早くから地域や同窓生に行う必要があった。
- ・創立100周年の記念事業・式典は生徒も積極的に参加し、厳粛かつ円滑に運営されていた。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇進路支援部	
4 現状の分析	<p>○「進路に関する情報提示」や「希望に沿った具体的な進路指導」について、普通科、生活デザイン科とも評価は高い。</p> <p>▲保護者の評価の方が生徒よりも低くなる傾向があり、生活デザイン科において顕著である。</p> <p>▲本校の特徴である地域との連携活動については、生活デザイン科の保護者への認知度が低い。</p> <p>▲3年次7月時点で、進路検討が十分になされていない生徒が、生活デザイン科に見られる。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇進路の諸活動が定着しておらず、進路決定に結びついていないところがある。</p> <p>◇生徒自身、自信がなく、自己肯定感や目標意識がない。</p> <p>◇学校での活動や情報を保護者に十分に伝えていない。</p> <p>◇地域と連携した活動を周囲に周知する広報活動が必要である。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者を利用して進路に関する知識や経験を蓄積する。</li> <li>・実習や地域探究活動を活用し、社会で通用する実践力を培う。</li> <li>・全校で語る会など異年齢交流を行い、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・保護者懇談会や進路だよりによる情報の伝達に努める</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進路行事の体系化を図るための、進路支援部内での情報共有や業者との綿密な打ち合わせ</p> <p>(2) 実習や探究活動について、普通科、生活デザイン科間で共通理解を持つために職員会議などで情報提供を行う。</p> <p>(3) 全校で語る会、普通科では夏季集中学習会や地域連携PJを通して、異年齢交流を行う。</p> <p>(4) 保護者懇談会、進路活動での保護者の参加機会を増やし、学校の様子を直接伝える機会を増やす。</p>	<p>(1) 外部講師やパートナーによる評価</p> <p>(2) 生徒・職員へのアンケート結果</p> <p>(3) 就職試験、入学試験の結果</p> <p>(4) 保護者の行事参加率</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>(1) 毎週、進路部会を開催し、各年次の取り組みなどを確認し、共通理解を持った。</p> <p>(2) 会議資料に活動内容を提供した。</p> <p>(3) 全校で語る会、普通科の夏季集中学習会での卒業生との座談会、地域連携PJなどにおいて異年齢交流を行った。</p>	<p>①進路行事は生徒の進路実現に向けたものとなったか。</p> <p>②全職員で周知できたか。</p> <p>③コミュニケーション能力や自己肯定感は生まれたか。</p> <p>④保護者が学校に対して意識を</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

<p>(4) 2, 3年次保護者懇談会、3年次における面接官募集を行った。 (5) 3年次生に向け進路だよりを発行した。</p>	<p>向けることができたか ⑤ 3年次生に進路意識を定着させ、進路決定がスムーズに行うことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 成果 ・ 課題</p>	<p>○多くの行事を実施し、進路に関する情報を伝えることはできた。 ▲情報が多く、定着できていないことがあった。特に就職に関する意識が低く、体系的に行事を見直す必要がある。 ○まだまだ全職員の共通理解を得ることができていない。部会や委員会などもう少し小さな集団での共通理解を進めたい。 ○生徒同士で話す機会をつくることは自己表現力の育成につながった。 ▲保護者懇談会の参加率は変わらず、1年次から参加できる行事を増やすと良いかもしれない。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する体系的な指導の確立</li> <li>・体験を定着させる評価の時間や、口に出して伝える発表の場を増やす。</li> <li>・保護者の参加できる進路行事などを模索する。</li> <li>・普通科の地域連携PJや生活デザイン科の実習などを活性化し外部にPRする。</li> <li>・進学について特に大学について知る機会を増やす。オープンキャンパス等への積極参加を早期から促す。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階で安易に進路を決めてしまうのではなく、最後まで高い目標に向かって挑戦する力を身に付けさせてもらいたい。</li> <li>・年2回行われている三者懇談を有効に活用し、1, 2年次の早い段階から高い進路意識を持たせることが大切である。</li> <li>・生徒・保護者・企業等を交えた進路懇談会を実施してはどうか。</li> <li>・地域連携プロジェクトは高校生が大人や地域とつながることができる良い機会であり、今後も継続・発展させていってほしい。</li> </ul>
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	①「未来を切り拓く心」 を持った生徒 ②基本的な社会性を身に 付け、自分と他者を大 切にできる、人間性豊 かな生徒 ③自らの役割を考え、自 らの信念を持って主体 的・能動的に行動し、 地域や社会に貢献でき る生徒	① 多様な科目の開講や 少人数授業、瑞高塾 等での個々に応じた 学びの推進 ② コミュニケーション 能力や、他者との関 わりの中での人間的 成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍 できる場の設定と自 己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、そ れを叶えるための「 志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあ り、「何事にも挑戦 する意欲」を持った 生徒 ③ 「人の役に立ちたい 」という気持ちを持 った生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒支援部（生徒指導、教育相談、特別活動）	
4 現状の分析	○基本的なモラルやマナーを身につけさせていることに高い評価を得ている（85%）。 ○悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多いと評価する生徒が増えた（74%→83%）。 ▲部活動、ボランティア活動、生徒会活動に対する評価は低い。	
5 学校の抱える課題	◇教育相談を必要とする生徒の増加によるSC・S相との連携、対応策の検討 ◇部活動や校外活動へ自主的・積極的に参加する生徒の減少	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・主体的に判断し、行動しようとする態度の育成 ・自己を生かす能力の育成 ・家庭や地域社会、関係諸機関との連携強化	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登校指導・年次指導・個別指導及びMSL活動の充実 (2) 各種検査や面談週間等による生徒理解 (3) 部活動・生徒会・委員会・ボランティア活動の充実	(1) 生徒個々に応じた対応と適切な支援 (2) 自己存在感、自己有用感の醸成 (3) 教育相談体制の充実と生徒理解	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・全職員での朝の挨拶運動、交通安全運動、身だしなみ指導などの取組。 ・各種検査、面談週間、心のアンケート等での生徒理解。いじめ事案への速やかな対応。 ・部活動加入推奨。生徒会活動及びボランティア活動の呼びかけ。	①共通理解・共通行動・社会的規範意識の育成。 ②教育相談と生徒への共感的理解。 ③特別活動の活動状況。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
12 成果 課題	○全職員の協力のもと、登校時における挨拶運動、月1度の交通安全運動、身だしなみ指導といった取組みを予定通り実施することができ、生徒への声かけとともに生徒と交流する機会になった。 ○悩み事や相談を希望する生徒の居場所となる『ほっとプレイス』や専門の職員の速やかな対応により、生徒理解に努めることができ、転退学者が激減した。 ○MSL活動（挨拶運動、交通安全啓発活動、街頭啓発活動など）は、東濃西部少年センターの協力もあり、積極的に活動できた。 ▲時間の経過とともに、『ほっとプレイス』を利用する生徒が増え、図書館という場所に限界が見られた。 ▲部活動やボランティア活動など、個々の生徒が主体的・意欲的に活動できる声かけが不十分であった。	
	総合評価 A (B) C D	

### 13 来年度に向けての改善方策案

- ・『ほっとプレイス』の設置場所の検討及び教育相談体制の充実を図る
- ・誰もが楽しく活動できる部活動を目指し、人間的な成長を育む
- ・ボランティア活動など、地域と連携した活動を通して、自己存在感・自己有用感を育成する

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・就職試験の採用側として高校生を面接する際の評価ポイントのひとつとして部活動の活動状況を大切に考えている。生徒には是非3年間部活動を継続してもらいたい。
- ・今年度から導入した「ほっとプレイス」はとても大切である。生徒の居場所を学校内につくることに意味がある。SCやS相等のスタッフとしっかり連携して生徒を支えてもらいたい。
- ・高校生は無理のない範囲内でボランティア活動に積極的に参加してもらいたい。地域とつながることで得られることも多いと思う。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒支援部 (保健厚生)	
4 現状の分析	○非常変災時のマニュアル把握等、生徒の防災意識は向上している。 ▲安全教育・健康管理について、学校の取組みが家庭に伝わっておらず、保護者からの評価が低い。 ○校内美化においては8割弱の肯定的な評価がありつつも、更なる向上が可能。 ▲健康診断事後指導において、受診報告率は近年5割以下と低い。	
5 学校の抱える課題	◇近年のコロナ禍での活動縮小により、実際に避難をする命を守る訓練が出来ていない。 ◇老朽化する校舎を、清潔な状態で維持していくことが難しい。 ◇健康診断事後指導への意識が低く、低視力のままなど、学習面への影響も懸念される。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・大地震・火災発生や土砂災害を想定し、安全な避難経路を選択して適切な場所へ避難する訓練を、計画・実施する。 ・校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、継続した環境美化活動を実施する。 ・健康診断を通して、生徒自らの健康への意識の向上を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 避難を伴う、命を守る訓練 (2) 全校生徒・全職員による毎日の清掃 (3) 健康診断事後指導の継続	(1) 避難に要した時間、取り組む姿勢 (2) 迅速な行動や取り組む姿勢 (3) 受診報告書の提出	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・命を守る訓練にて、校内の危険や非常変災時の避難方法を周知する。 ・「場を清める」ことに気を配り、集中して時間いっぱい清掃活動に取り組む。 ・健診事後指導未報告者へは個別で、受診状況の確認や症状の経過観察、再検査をする。	① 安全な経路を選択して避難できたか。避難に要した時間は最小限であったか。 ② 授業後素早く集合して、集中して取り組んでいるか。 ③ 各種健診の事後指導 (受診) 報告率は向上したか。	A B C D A B C D A B C D
12 成果 課題	○3年ぶりに避難を伴う訓練を実施し、本校での避難は全校生徒・半数近い教職員が初めてのことであったが慌てることもなく、適切に状況判断をして真剣に取り組んだ結果、4分台で避難場所に集合できた。 ○教室廊下等、ごみや綿埃が落ちていない環境をキープ出来ている。 ▲トイレ掃除など、汚れやすい箇所の清掃に消極的である。 ○健診の事後指導 (受診) 報告率は7割程度まで向上した。 ▲職員の危機管理意識が不十分な面が見られた。	
	総合評価 A B C D	

### 13 来年度に向けての改善方策案

- ・新たなシチュエーションでの命を守る訓練を実施し、いざという時に臨機応変に対応できる防災力を身に着ける。
- ・防災意識を、学校だけでなく、家庭でも考えられる取り組みを行う。
- ・集中して静かに清掃することで、作業効率よく、より隅々まできれいにできるようにする。
- ・トイレの清掃ポイントを明確にし、担当者内で共有して取り組む。
- ・今後も未受診者へは経過観察を行い、懇談時等に保護者の方へ受診の依頼をするなどして保健指導や健康教育を継続していく。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・命を守る訓練等の様子から職員の一部に危機管理意識が低いと思われる記載があった。災害はいつ、どこで起こるかわからないので、職員全員の危機管理意識を高めることが急務である。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実で、自主的、自立的な人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 「未来を切り拓く心」を持った生徒 ② 基本的な社会性を身に付け、自分と他者を大切にできる、人間性豊かな生徒 ③ 自らの役割を考え、自らの信念を持って主体的・能動的に行動し、地域や社会に貢献できる生徒	① 多様な科目の開講や少人数授業、瑞高塾等での個々に応じた学びの推進 ② コミュニケーション能力や、他者との関わりの中での人間的成長の涵養 ③ 生徒一人一人が活躍できる場の設定と自己有用感の育成	① 自分の夢を持ち、それを叶えるための「志」を持った生徒 ② 素直で思いやりがあり、「何事にも挑戦する意欲」を持った生徒 ③ 「人の役に立ちたい」という気持ちを持った生徒

3 評価する領域・分野	◇生活産業部	
4 現状の分析	○入学時から自分の学びたいこと(類型)を明確に持って、意欲的に取り組むことを望む生徒が多い。 ○インターンシップ等の体験学習が再開したことにより、類型での学びと進路を結びつけて考える生徒が増えた。 ▲自己肯定感の低さからか、人間関係で悩む生徒が少なくない。 ▲専門的な学習内容に困難を感じている生徒がいる。	
5 学校の抱える課題	◇多様な習熟度の生徒に向けて、学習環境をどのように整えるか。(学習の内容 到達度 検定取得級の検討 など)	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・専門科目の確かな知識や技術を習得し、進路実現に向けて意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・検定や資格取得を目指す活動を通して自ら行動することを学び、自己肯定感を向上させる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域の社会資源との連携 (2) どのような力をつけさせたいかを明確にする。 (3) 教科会において「報連相」を確実に行之、支援の必要な生徒を把握する。	(1) 地元産業団体との連携。 (2) 講習会後の生徒の反応及び感想・評価。卒業制作・実践活動発表会での成果発表。 (3) 支援が必要な生徒の学習の様子を継続的に観察し、評価に繋げる。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・専門家や地域産業に関わる人との交流や体験を通して、自発的な学びが行える環境づくりを行う。 ・専門科目に関連する進路実現への取組み。 ・支援が必要な生徒への個別援助を行う。	①生徒が意欲的に活動に取り組む姿勢が見られたか ②専門科目に関連する進路実現ができたか ③生徒個々の専門的知識や技術の習得到達点が把握できたか	A B C D A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○生徒は検定への取組みや作品制作などの専門的な学習を意欲的に行うことができた。また、卒業制作・実践活動発表会を通して達成感を得ることができた。 ○中学生に向けての行事等を通して高校生自身がPRすることにより、入学時より類型での学習に目的をもっている生徒が多い。 ▲従来の学習内容及び方法の見直しが組織的にできていない。科としての方向性を教員で共有し、検討する必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案	・生徒の実情を把握し、学習内容及び各行事の検討・精選を行う。 ・キャリア教育の在り方を見直し、進路選択及びその実現に向けて進路支援部や学年団と連携を取る。	
	総合評価 A (B) C D	



## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

- ・ 1月に実施された卒業制作・実践活動発表会での生活デザイン科4コースの発表はどれも素晴らしく、見応えがあった。発表する生徒の表情も自信に満ちていた。
- ・ 家庭クラブのJR瑞浪駅への座布団の寄贈や福祉祭りへの参加など地域貢献に力を入れている。地域とのつながりはとても大事なのでこれからも活動を継続してもらいたい。